

サッカー交流に AMD A手応え

ハイチ激励

大地震に見舞われたハイチで医療支援にあたっている国際医療NGO「AMD A（アムダ）」（本部・岡山市）は3日、記者会見を開き、ハイチの子どもたちを元気づけるために隣国のドミニカ共和国で開催したサッカーの親善交流について報告した。

交流は8月18、19日にあり、日本、ハイチ、ドミニカからそれぞれ約20人の中高生が参加。1日目は各国対抗、2日目は3国の合同チーム同士で試合をした。会見で、ハイチ事業担当

の石岡未和さんらが、各国の子どもたちが同じチームになったことで次第に会話が増え、仲良くなっていく様子を紹介。菅波茂代表はスポーツでの交流について「正解だと思った。混合チームの試合は国と国との所属意識が抜けていた」と話し、交流を10年間続けるとともに、他国にも広げていく意向を示した。

また、大規模な洪水被害を受けたパキスタンを支援するため、多国籍医師団の派遣を決めたことを発表。アフガニスタン支部が9月初旬から、日本の本部などが同月中旬から現地に入り、巡回診療や食料品の配布をする。